

富山県呉西地区の希少伝統工芸品を活かした産業観光に関する研究 —越中福岡の菅笠を中心に—

安嶋 是晴¹

1 はじめに

富山県呉西地区²は伝統的工芸品が集積している地域である。全国的には伝統的工芸品は衰退傾向にあるが、高岡の銅器産地では、商品開発や産業観光などで目覚ましい成果をあげ、注目されている事業所もある。そこで本研究事業では、この高岡銅器などの先駆的な産業観光の取り組みを参考にしつつ、越中福岡の菅笠をはじめ、呉西地区に点在する認知度の低い工芸品の発掘・連携を図り、新たな産業観光のモデル構築を目的とする。

2 事業実施の背景

伝統的工芸品は、かけがえのない地域資源であり、地域の文化や歴史、風土、さらに雇用の場として重要な役割を果たしてきた。しかしライフスタイルの変化や工業製品が普及するにつれて、工芸品の意義は薄れ、衰退の危機にさらされている。

富山県では、高岡漆器、高岡銅器、越中和紙、庄川挽物木地、井波彫刻、越中福岡の菅笠の6品目が経済産業大臣による伝統的工芸品の指定を受けている。また高岡仏壇や高岡鉄器など富山県指定の伝統工芸品は5品目あり、さらに地域の各所には、認知度が低い希少伝統工芸品を生産する零細な事業所が多数存在する。これらの伝統工芸品は

藩政期（前田家）の歴史的な経緯もあり、呉西地区に多く集中している。ただし、どの伝統的工芸品も衰退が著しく、その対応策に苦心している。

そうした中で、高岡市の株式会社能作は現代的な錫製品を開発し、さらに工場見学や制作体験などの産業観光によって伝統工芸品再生にむけた先駆的な取り組みとして一定の成果を収めている。また高岡伝統産業青年会や高岡銅器団地協同組合なども工房見学ツアーや工芸体験を企画し、高く評価されている。今回の事業では、こうした産業観光の事例に学びながら、越中福岡の菅笠産地において産官学民の協働体制を整えつつ、さらに呉西地区に多数点在する小規模で知名度の低い希少伝統工芸品（わら細工、陶器、漆器、行灯、瓦、絹、縞、など）の発掘、ネットワーク構築を図りながら、呉西地区での希少伝統工芸産業による産業観光の新しいモデル構築を図る。

3 越中福岡の菅笠とは

越中福岡の菅笠（写真1）は、明治時代には問屋が60戸存在し、年間300万枚を生産していたが、菅笠の需要が減少し、現在は3～4万枚となっている。従事者も笠骨職人1名、笠縫職人70名程度で、その多くは高齢

¹ 富山大学芸術文化学部准教授

² 高岡市、氷見市、射水市、小矢部市、南砺市、砺波市の6市を指す



(写真1) 越中福岡の菅笠 (富士笠)

者の副業で担われている。また原材料である菅(すげ)を栽培する人も減少し、多くの課題を抱えている。ただし、越中福岡の菅笠は、今なお全国9割のシェアを占める³。

2003(平成15)年に、「福岡町の菅田」、「菅干し」が文化庁実施の「文化的景観」の調査研究で重要地域に選ばれ、2008(平成20)年には国の「重要無形民俗文化財」の指定、2013(平成25)年には「富山県伝統工芸品」の指定、2016(平成28)年には高岡の「日本遺産」構成要素に「越中福岡の菅笠

製作技術」、「菅笠問屋の町並み」の追加認証がなされている。そして2017(平成29)年11月には、国の「伝統的工芸品」の指定を受けるなど、注目される要素は多くある。

今後、越中福岡の菅笠産地では、よりよい支援体制や制度、再生策を整備することが求められているが、産地の人たちだけで考えるには限界があり、産地の事業者や行政、大学や民間企業が協働し取り組みを進めていく必要がある。

4 事業の内容

このような背景から、今回の事業では、①支援体制の構築、②資源の掘り起こし、③商品開発、④産業観光実施、の4つの柱として取り組んだ。具体的に取り組んだ事業を報告する(表1)。

①支援体制の構築

支援体制の構築では、「行政、振興会、民間事業者、大学、生産者との意見交換会を実

(表1) 事業のスケジュール

	①支援体制構築	②資源掘り起こし	③商品開発	④産業観光
6月				
7月		産業観光調査	繭カプセル	
8月	新商品開発会議	↓	菅コンペ	
9月	↓		↓	
10月				
11月				ツアー企画
12月				↓
1月				ツアー実施
2月				企画案作成
3月				↓

³ 生産量は減少したが、良質な菅の産地として高い評価を受けており、歴代天皇即位の大嘗祭や、伊勢神宮式年遷宮の時には福岡の菅が使用されている。

施し、大学で調査した意見を反映させながら、今回の実施事業の構築、ブラッシュアップをはかる」ことを計画していた。そこで越中菅笠の菅笠振興会と協力し、新商品開発



(写真2) 新商品開発委員会 風景

委員会(座長:安嶋)を立ち上げ、構成員は、
[産] 越中福岡の菅笠振興会7名、[官] 高岡デザイン・工芸センター職員1名、高岡市福岡行政センター職員1名、[学] 大学教員1名、大学生2名、[民] 菅っこメイト⁴(NPO)1名、越中福岡の菅笠保存会 元会員1名、の計14名で、8月~11月の4回開催した(写真2)。議題は新商品開発に加え、既存商品のブラッシュアップ、販路やネーミングなどの検討を行った。特に大学の方で実施した「菅を使用した新商品アイデアコンペ」(後述)を取りまとめ、意見交換を行った。

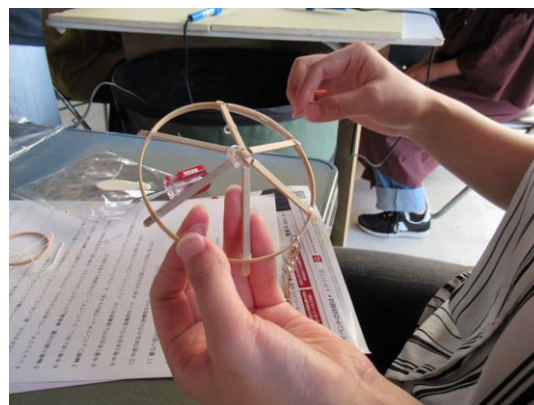
②資源の掘り起こし

資源の掘り起こしでは、「潜在的な地域資源の掘り起こしを図り、データを整理する。すでに竹細工やわら細工、焼き物などの地域

資源の存在が明らかとなり継続調査でデータの拡充をはかる」を計画していた。今回は7月~2月に6回に渡り、実際に呉西地区に行われている体験や産業観光を通じて資源の掘り起こしをはかった⁵(写真3,4)。また岐阜県高山市で行われている産業観光事例の視察調査を行った。



(写真3) (株)能作 鑄造体験風景



(写真4) ミニ笠骨 制作体験 風景

③商品開発

商品開発では、「希少伝統工芸品を、現代の生活にあった魅力的な商品とするために、

⁴ 菅っこメイトは菅の小物を作成したり、子どもに作り方を教えたりする愛好家のグループ

⁵ 若鶴酒造・三郎丸蒸留所(砺波市)、高岡クラブツーリズム(高岡市)、高岡民芸(高岡市)、能作(高岡市)、モメンタムファクトリー・oriなどに調査を実施

**菅を使用した
新商品アイデアコンペ**

菅笠の約9割が越中福岡で作られていますが、近年衰退の一途をたどっています。そこで菅笠復興のために、皆さんの自由な発想を生かした“菅”新商品のアイデアを募集します!! あなたのアイデアが商品化するかも?!

募集期間：8月23日(金)～9月24日(火)

応募方法：

1. LINEにて提出
 - ①公式LINEを友達登録
 - ②エントリーシート(データ(PDF形式))をダウンロード
 - ③書き込んだデータをLINEにて提出(形式:PDF)
2. ポストにて提出
 - ①フライヤー裏面のエントリーシートにアイデアを記入
 - ②エントリーシートのポストに提出
 ※ポストは8月23日(金)より設置いたします。

景品：~~賞状~~ 关西地区の工芸品詰め合わせ & 図書カード2000円分

主催 菅笠活性化プロジェクト

(写真5) 菅の新商品コンペ チラシ

企画コンペを実施する。商品は実際にものを作るだけでなく、体験メニューなどの企画やデザイン案も含めて募集する。一般募集も行うが、富山大学芸術文化学部の学生に協力依頼して行う。必要に応じて見学ツアーを実施する」としており、企画コンペについては、8月～9月にかけて、富山大学芸術文化学部の学生から募集し、75の提案を受けた(写真5)。この内容は新商品開発委員会と共有するとともに、商品化の可能性を検討し、委員全員で点数をつけて優秀な3作品を表彰した⁶。

さらに今回の事業に参加している学生が、菅笠の技術と城端絹(南砺市)を合わせた人が入ることができる「繭カプセル」(写真6)の商品開発に取り組むことになった。



(写真6) 繭カプセル



(写真7) モデルプラン実施風景



(写真8) モデルプラン実施風景

④産業観光

産業観光では、①～③の総合化であり、モニター調査を実施して、最終的に観光プラ

⁶ 3つのアイデアは、菅の簾、菅の箸置、菅のランプシェードで商品化を検討している

ン作成につなげるものである。10月～12月にかけてプラン作りを行い、1月に学生によるモニター調査を行った。今回は菅笠を被って映える景色を心掛け、プランに菅笠の制作体験を入れ、制作した菅笠を被り、呉西地区を巡回することを試みた⁷（写真7、8）（表2）。実施の際はインスタでリアルタイム発信した。

これらの企画・体験を踏まえ、最終的に菅笠に関わる、①外国人向けツアー、②学生向けツアー、③若者向け写真映えするツアー、④体験中心のツアー、⑤親子で楽しめるツアーなど、8つのプランを作成した。次年度は高岡市観光協会、高岡商工会議所青年部と協力しつつ、企画の精緻化を図っていく予定である。

⑤その他

今回の事業とは直接関係はないが、菅の栽培に関して、刈り取りや天日干し、芽かき（間引き）などに協力し、菅および菅笠産業と人間関係の構築を図った（写真9）。



（写真9）菅刈協力風景

（表2）1月11～13日のモデルツアー企画案

日程	時間	計画内容
1/11 (土)	9:30	高岡駅集合
	10:00～12:30	螺鈿体験（漆器くにもと・高岡市）
	12:30～14:00	昼食（山町茶屋・高岡市）
	14:00～15:00	カフェ休憩（黄色い長ぐつ・高岡市）
	15:00～16:30	観光・ショッピング（ひみ番屋街・氷見市）
	16:30～18:00	入浴体験（氷見総湯・氷見市）
	18:00	宿泊（ゲストハウス氷見 SORAIRO・氷見市）
1/12 (日)	6:00～7:30	ご来光見学（雨晴海岸・氷見市）
	7:30～9:00	朝食（おがわ・氷見市）
	9:00～11:00	観光・見学（氷見昭和館・氷見市）
	11:00～18:00	菅笠製作体験（Samurai's house・高岡市） ※途中昼食（むかわ・高岡市）
	18:00～20:00	夕食（大湖・小矢部市）
	20:00	宿泊（ゲストハウス Samurai's house・高岡市）他
1/13 (月)	9:00～10:00	観光（瑞泉寺参道・南砺市）
	10:00～12:00	機織体験（城端織館・南砺市）
	12:00～13:00	昼食（料理かねしま・南砺市）
	13:00～15:30	観光（庄川遊覧船・砺波市）
	15:30～16:30	観光（五箇山相倉集落・南砺市）
	16:30～17:00	紙漉き体験（五箇山和紙の里・南砺市）
	18:30	高岡駅解散

⁷ 当初の企画の3日目は「菅笠で雪山めぐり」だったが、雪不足のため企画を変更した。

5 事業の成果

今回の調査事業では、商品開発委員会で産官学民の連携をはかりながら、意見交換をはかり、時には対立する意見を調整する中で、それぞれの主体の成長が実感できた。希少伝統工芸品の事業者は、小規模で知名度も低く、商品開発や産業観光など新しいことに取り組む余裕がないが、様々な主体と協働することで、産業観光など、さまざまな事業が可能となる。さらに菅笠だけでは観光資源として活用が難しくても、既存の地域資源と関わらせることで有用な資源となることが明らかとなった。

また越中菅笠の菅笠と城端絹という産地・産業を超えたネットワークが生まれたことは大きな成果である。今回は学生による繭カプセルの制作であったが、今後さらなる新商品開発が期待できる。

さらに産業観光の8つのプラン作成も大きな成果である。精緻化の余地はあるものの、菅笠プロジェクトのホームページで随時公開・更新していく予定である。

最後に、今回の取り組みは、多くのマスコミに取り上げていただいた。菅笠など希少伝統工芸を知ってもらう機会を創出したことは大きな成果である。

6 今後の展望

本事業の目的は、希少伝統工芸品に合っ

た新しい産業観光システムの構築であった。今回は調査研究を踏まえ、モニターツアーの実施・評価を行い、8つのプランを作成したが、まだ個別に実証がなされてはいない。そこで今後、高岡市観光協会や高岡商工会議所青年部との意見交換をはかり、調査や実証実験を繰り返しながら、プランの精緻化を図り、事業化につなげる。

事業化の大きな課題は料金の徴収（有料化）であるが⁸、資本も少なく知名度も低い菅笠などの希少伝統工芸品が、(株)能作のように施設整備を行い、体験の専用人材や場所を確保することは難しい。産官学民の役割分担を再考し、効率的で持続的な産業観光システムが求められる。そして菅笠に関する体験事業や観光事業が実現すれば、新たな収入の可能性を生み、希少伝統的工芸品の衰退を食い止め、技術の伝承や後継者の育成などにつながる。今後、大学が中心となり、支援を継続していく。

なお今回の事業では、学生アイデアの体験メニューの創出には至らなかった。ただし、様々な体験の調査をする中で、不要になった原材料を活用するアイデアや、工芸品同士を連携させる（銅器に漆で文字を書くなど）アイデアも出された。これらは今後重点的に取り組み、新たな体験メニューを組み込んだ産業観光システムの実現を目指す。

(参考文献)

- ・ 日和祐樹 (2002) 「福岡町の菅と菅笠」 福岡町カルチャー文庫
- ・ 向田菅生産組合生活改善グループ 柏の女会 (1982) 「福岡の菅」
- ・ 福岡の菅笠保全対策委員会編 (2015) 「越中福岡の菅笠保全対策提言書」
- ・ 福岡町史編纂委員会編 (1969) 「福岡町史」 福岡町

⁸ 実施の際は旅行業法など、法に則って実施する予定